

授業科目 基礎看護技術演習II

【担当教員名】 長谷川 隆 雄	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【概要・一般目標：G10】

人々の健康を促進するために必要な援助方法を理解し、診療に伴う看護技術の基本を修得する。

【学習目標・行動目標：SB0】

1. 診療における看護の役割について説明できる。
2. 感染を防ぐ看護技術の理論的な根拠について説明できる。
3. 滅菌物の取り扱いに必要な看護技術が修得できる。
4. 呼吸を整える看護技術の理論的な根拠について説明できる。
5. 吸入療法に必要な看護技術を修得できる。
6. 与薬に伴う看護技術の理論的な根拠について説明できる。
7. 筋肉内注射に必要な看護技術を修得できる。
8. 点滴の準備に必要な看護技術を修得できる。
9. 検査に伴う看護技術の理論的な根拠について説明できる。

回数	授業計画・学習の主題	SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	診療における看護の役割 1) 診療に伴う看護の責務 2) 診療に伴う看護技術における安全の保障	1	講義
2	感染を防ぐ看護技術 1) 感染防止対策の基本、Standard Precaution 2) 洗浄・消毒・滅菌の方法 3) 滅菌物の取り扱いの原則	2	講義
3	滅菌物の取り扱いの看護技術	3	演習（基礎看護学全教員）
4	呼吸を整える看護技術 1) 呼吸のメカニズムと安楽な呼吸 2) 吸入療法の方法	4	講義
5	酸素吸入と気道内加湿法の看護技術	5	演習（基礎看護学全教員）
6	与薬に伴う看護技術 1) 与薬の目的と意義 2) 与薬における安全管理 3) 注射法の種類と方法	6	講義
7-8	筋肉内注射の看護技術	7	演習（基礎看護学全教員）
9	点滴準備の看護技術	8	演習（基礎看護学全教員）
10	検査に伴う看護技術 1) 検査の目的と意義 2) 検査の種類と方法	9	講義
11-12	採血の看護技術	10	演習（基礎看護学全教員）
13	排泄障害に伴う看護技術 1) 排泄のメカニズムと排泄障害 2) 排泄障害のアセスメント	11	講義
14-15	一時的導尿の看護技術	12	演習（基礎看護学全教員）

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	基礎看護学[3] 基礎看護技術II	藤崎郁	医学書院	2006・2,800円＋税
参考書	基礎看護学(3) 基礎看護技術II	深井喜代子編	メヂカルフレンド	2007・3,400円＋税
その他の資料	配布資料			

【評価方法】

出席状況、演習内容に基づいた課題の内容：
10%
期末試験：90%

【履修上の留意点】

演習で各基礎看護技術を修得するためには、事前学習を十分に行うことが大切である。